

# 結果の概要

- ・結果の概要における「高かった」「低かった」「増加した」「減少した」など、集計結果の評価に関わるコメントは、統計学的な検定（有意水準5%とした）に基づき記述した。
- ・解析対象者数については（ ）内で併記した。

## 第1章 体格及び生活習慣に関する都道府県の状況

体格(BMI)及び主な生活習慣の状況について、都道府県別に年齢調整を行い、高い方から低い方に4区分に分け、上位(上位25%)群と下位(下位25%)群の状況を比較した結果、BMI、野菜摂取量、食塩摂取量、歩数、現在習慣的に喫煙している者の割合(男性)について、それぞれ上位群と下位群の間に有意な差がみられた。

表1 体格(BMI)及び生活習慣に関する都道府県の状況

	都道府県の状況			上位群と下位群の差
	全国	上位群	下位群	
1. BMIの平均値(kg/m <sup>2</sup> )				
男性(20～69歳)	23.9	24.8	23.5	1.3
女性(40～69歳)	22.3	23.2	21.8	1.5
2. 野菜摂取量の平均値(g/日)				
男性(20歳以上)	270	305	235	69
女性(20歳以上)	251	285	228	57
3. 食塩摂取量の平均値(g/日)				
男性(20歳以上)	10.5	11.4	9.6	1.7
女性(20歳以上)	8.9	9.6	8.3	1.3
4. 歩数の平均値(歩/日)				
男性(20～64歳)	8,564	9,151	7,713	1,438
女性(20～64歳)	7,291	7,632	6,207	1,425
5. 現在習慣的に喫煙している者の割合(%)				
男性(20歳以上)	24.2	28.5	18.4	10.1

※都道府県別結果を高い方から低い方に4区分に分け、上位25%の群を上位群、下位25%の群を下位群とした。

※比較に用いた値は、各指標の年齢区分における平均年齢で年齢調整を行った値である。本章の全国平均は、この方法で年齢調整を行った値であるため、他の章の全国補正值及び年齢調整値とは異なる。

※上位群と下位群の差は、四捨五入のため上位群の平均値から下位群の平均値を引いた値とは一致しない。

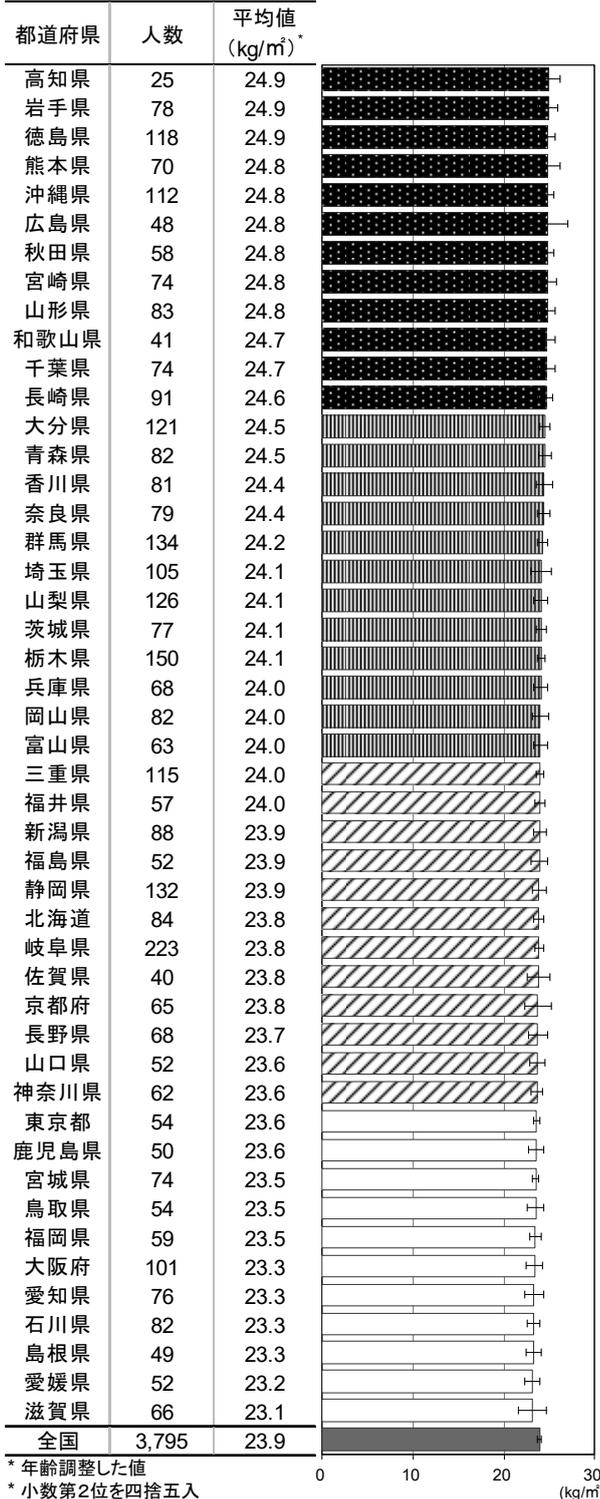
注)女性における現在習慣的に喫煙している者の割合は、誤差率が著しく高いため、地域格差の把握には適さないと判断した。

### <参考> 体格(BMI)及び生活習慣に関する都道府県の状況

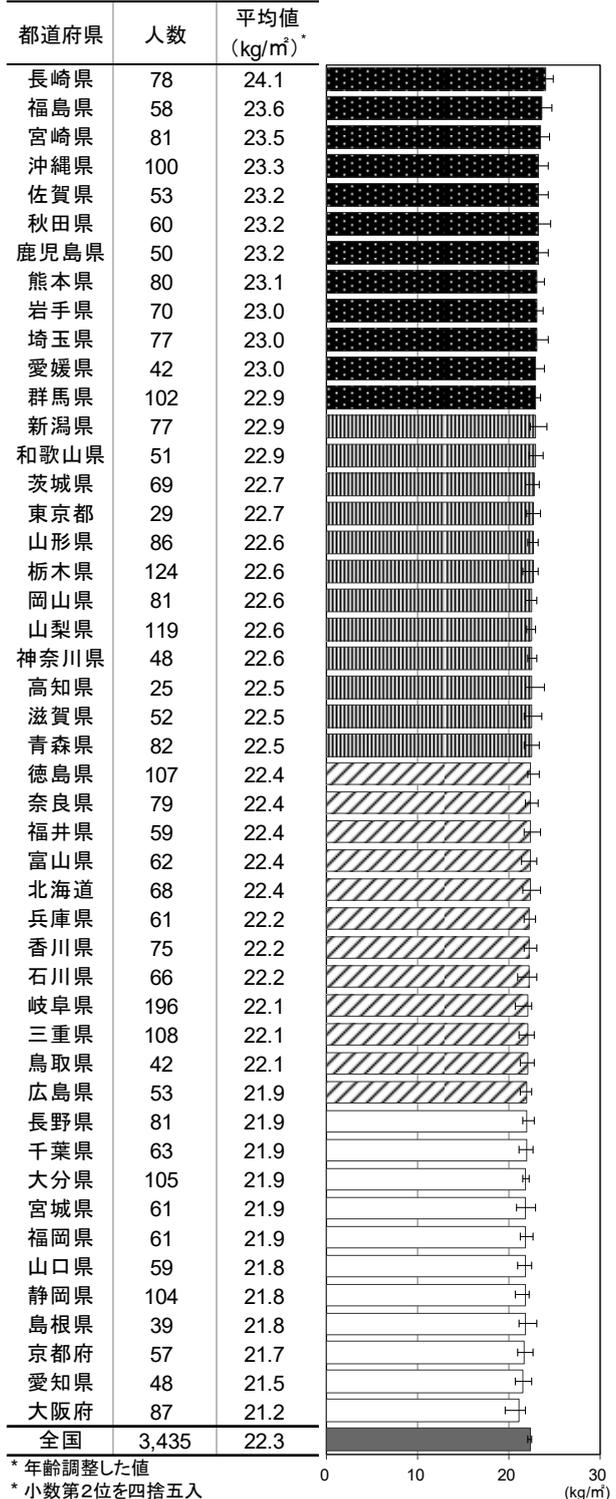
- ▷ 都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、色分けをして示した。  
 なお、都道府県別データについては、差異がみられる小数点以下の桁数まで算出し、値が高い方から並べた。  
 都道府県順位については、誤差変動を考慮し、示していない(12頁参照)。
- ▷ 図の横軸誤差範囲については、平均値又は割合の95%信頼区間を示した。  
 95%信頼区間: 同人数の標本を繰り返し抽出して調査を行った場合、95%の確率でこの範囲内の値をとる区間を示す。  
 信頼区間の幅が狭いほど値の精度は高いといえる。

## 1. BMI の平均値

男性(20~69歳)

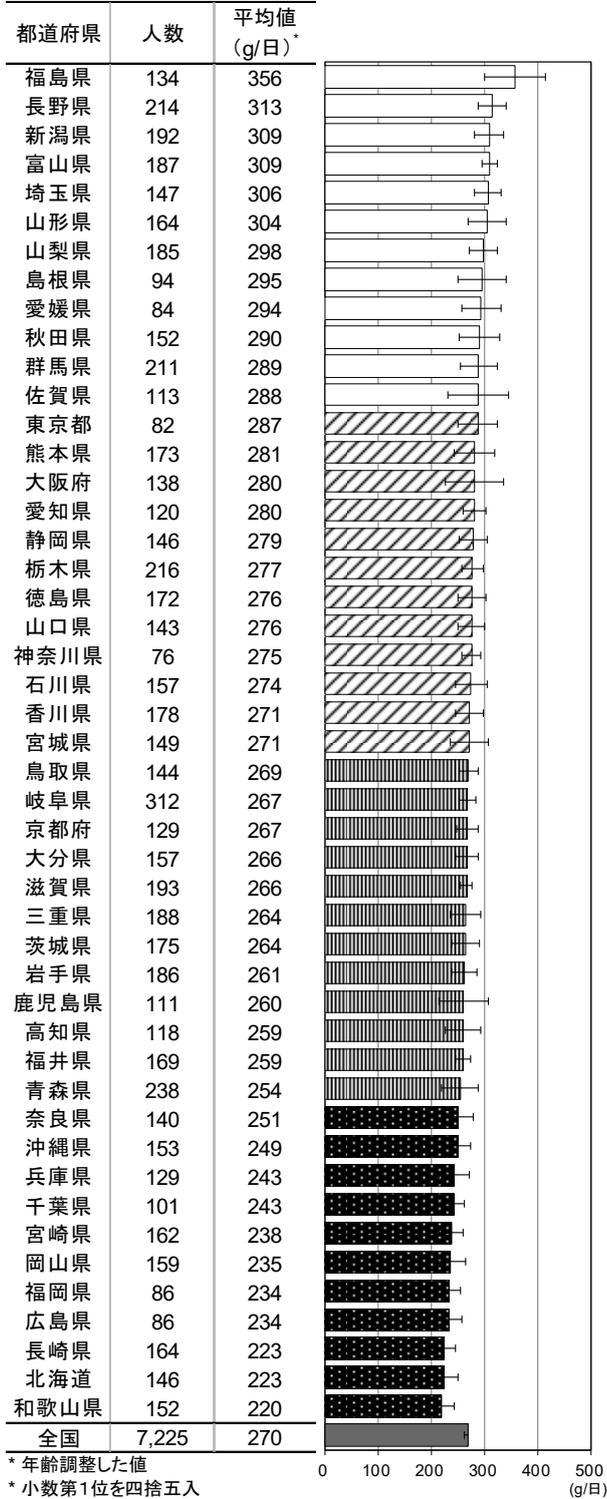


女性(40~69歳)

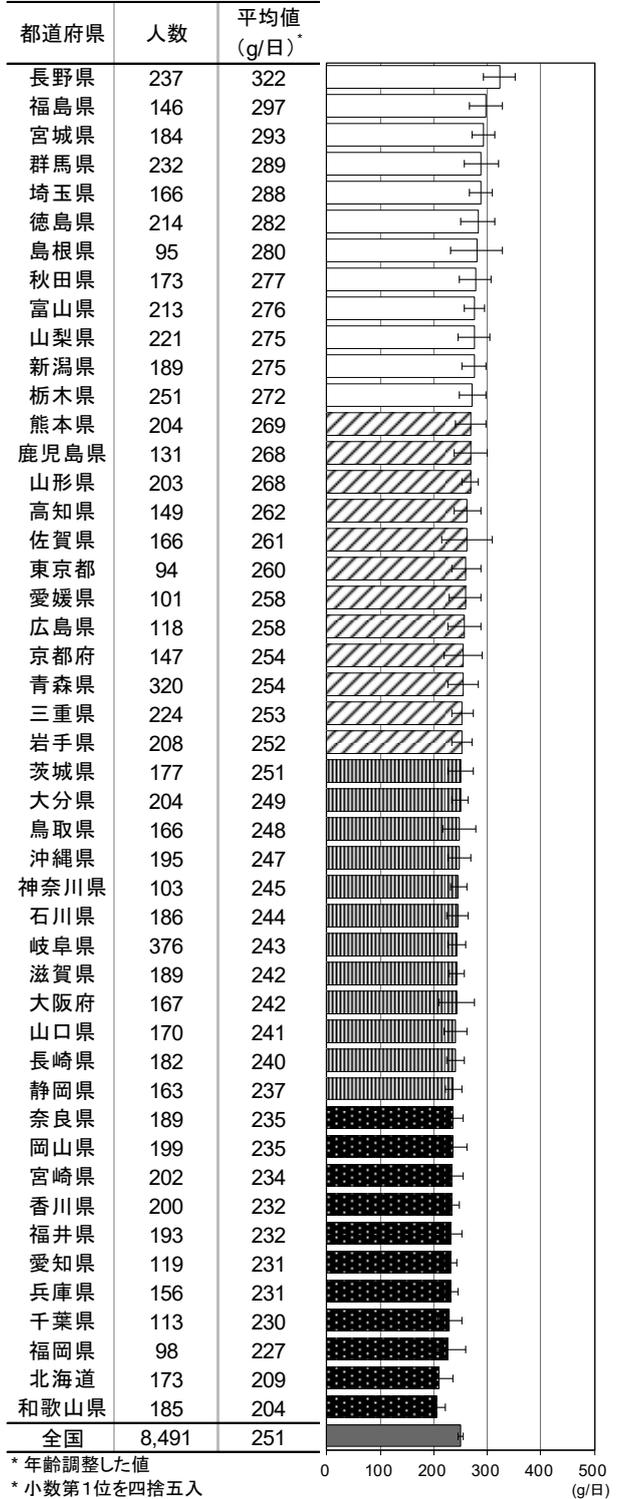


## 2. 野菜摂取量の平均値

男性(20歳以上)

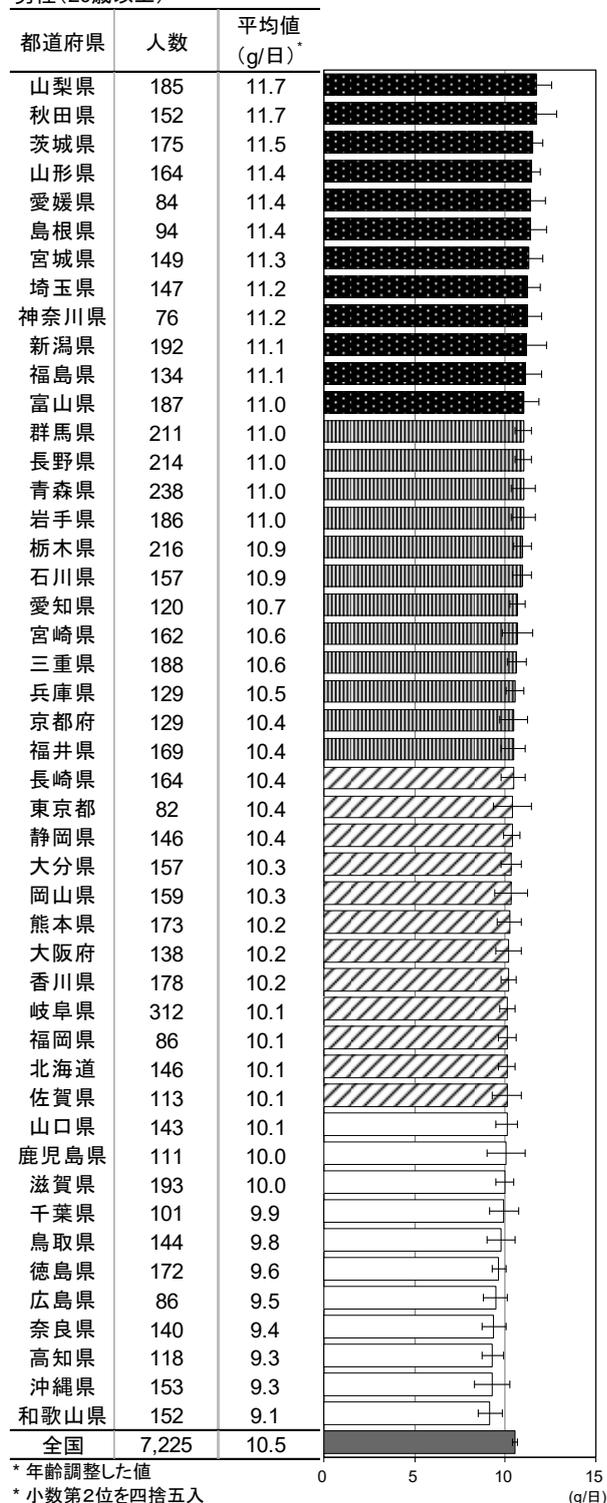


女性(20歳以上)

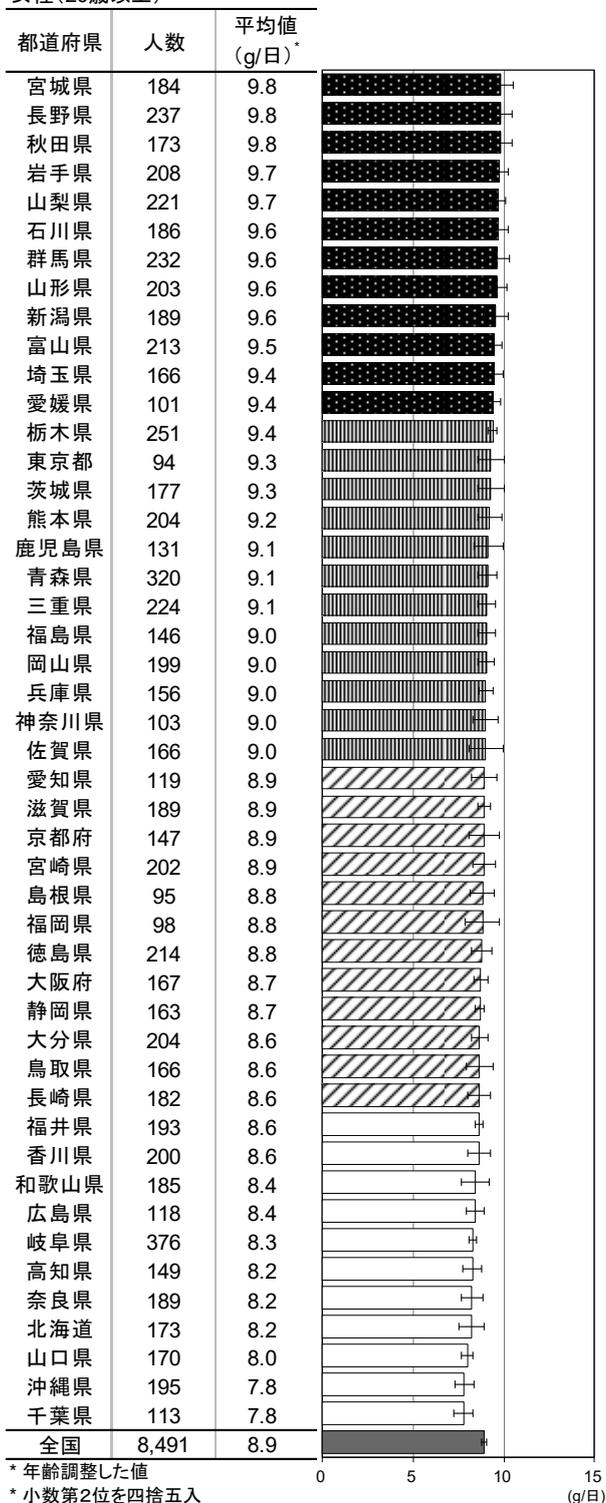


### 3. 食塩摂取量の平均値

男性(20歳以上)

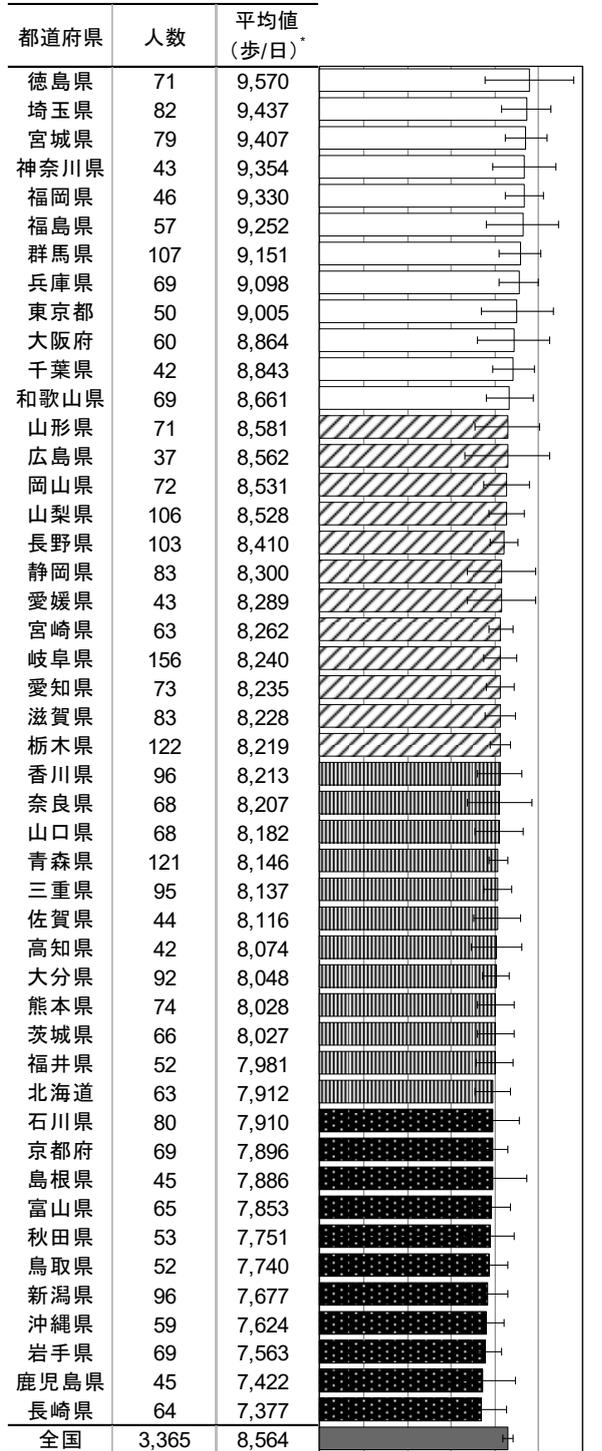


女性(20歳以上)



## 4. 歩数の平均値

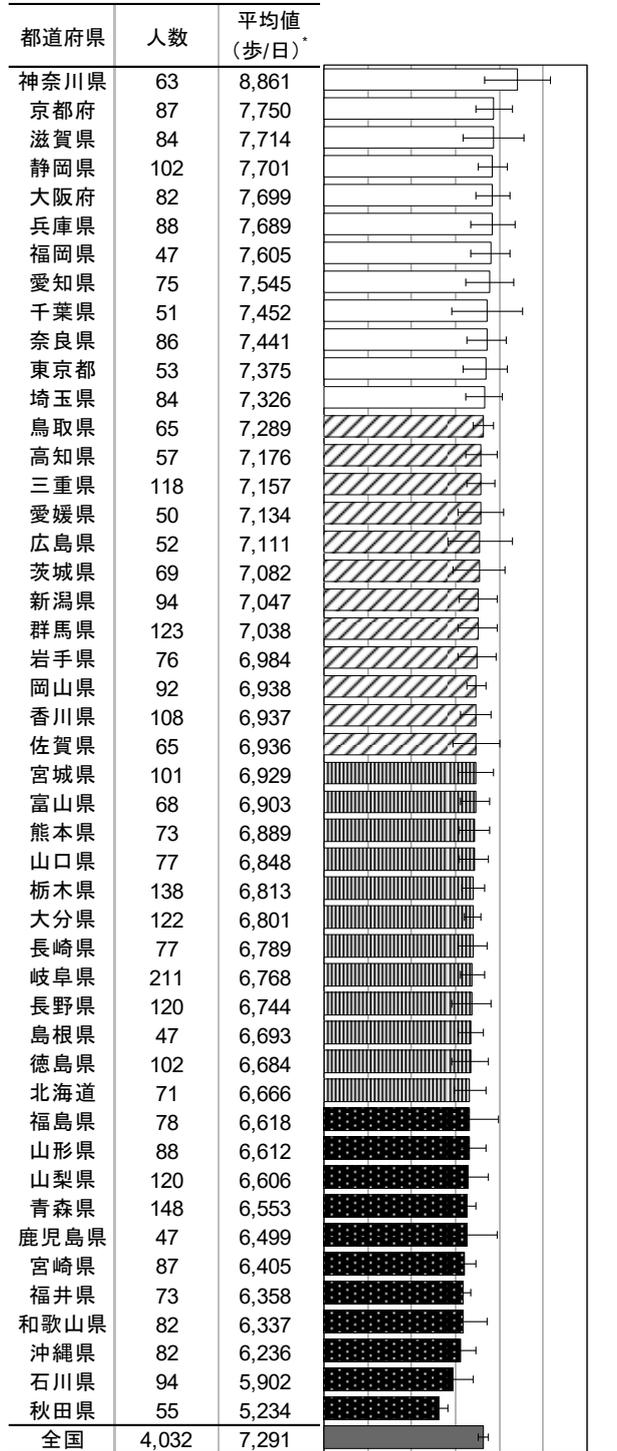
男性(20~64歳)



\* 年齢調整した値

\* 小数第1位を四捨五入

女性(20~64歳)

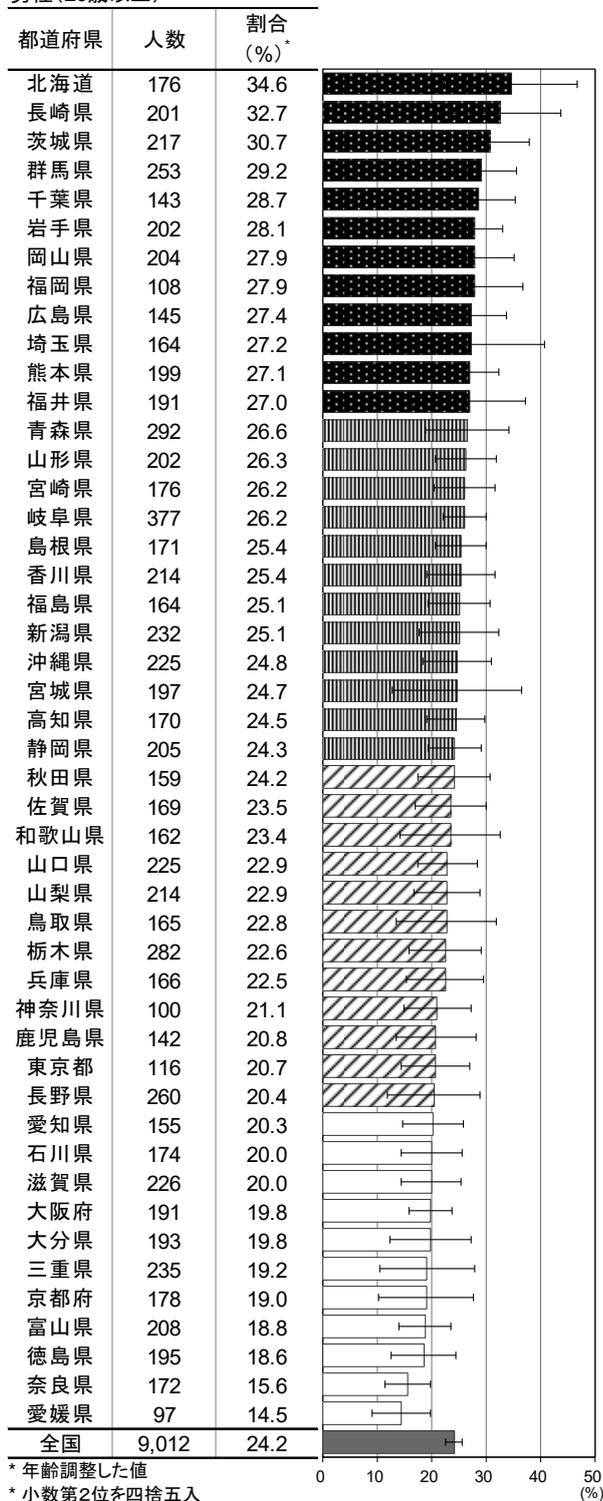


\* 年齢調整した値

\* 小数第1位を四捨五入

### 5. 現在習慣的に喫煙している者の割合

男性(20歳以上)



## 第2章 糖尿病に関する状況

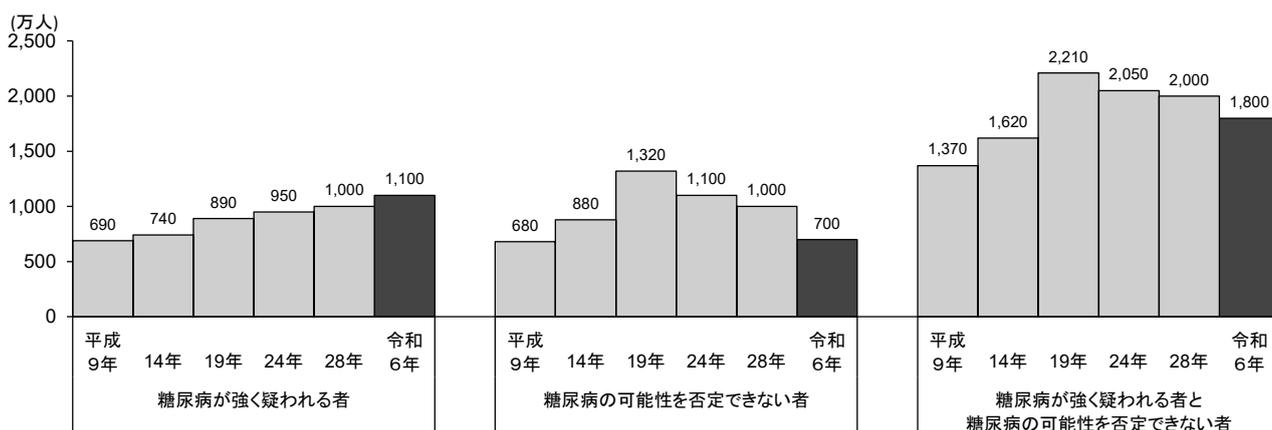
### 1. 「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計人数

「糖尿病が強く疑われる者」は約 1,100 万人と推計され、平成9年以降増加している。「糖尿病の可能性を否定できない者」は約 700 万人と推計され、平成 19 年からみると減少している。

#### ▼「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の判定▼

- ①「糖尿病が強く疑われる者」とは、ヘモグロビン A1c の測定値があり、身体状況調査票(7)、(7-1)及び(7-2)が有効回答の者のうち、ヘモグロビン A1c(NGSP)の値が 6.5%以上(平成 19 年まではヘモグロビン A1c(JDS)値が 6.1%以上)の者、又は身体状況調査票(7)「これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことの有無」に「有」と回答し(7-1)「現在、糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者。
- ②「糖尿病の可能性を否定できない者」とは、ヘモグロビン A1c の測定値がある者のうち、ヘモグロビン A1c(NGSP)値が 6.0%以上、6.5%未満(平成 19 年まではヘモグロビン A1c(JDS)値が 5.6%以上、6.1%未満)で、「糖尿病が強く疑われる者」以外の者。

図1 「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計人数の年次推移  
(20歳以上、男女計)(平成9(1997)年、14(2002)年、19(2007)年、24(2012)年、28(2016)年、令和6(2024)年)



#### 〈参考〉「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計人数の算出方法

性・年齢階級別の「糖尿病が強く疑われる者」の割合と「糖尿病の可能性を否定できない者」の割合に、それぞれ総務省統計局「人口推計(当該年の10月1日現在)」の性・年齢階級別の全国人口を乗じて全国推計値を算出し、合計した。

(参考)「健康日本 21(第三次)」の目標 糖尿病有病者の増加の抑制  
目標値: 糖尿病有病者(糖尿病が強く疑われる者)の推計値 1,350 万人

表2 解析対象者(※)の性・年齢構成の年次推移

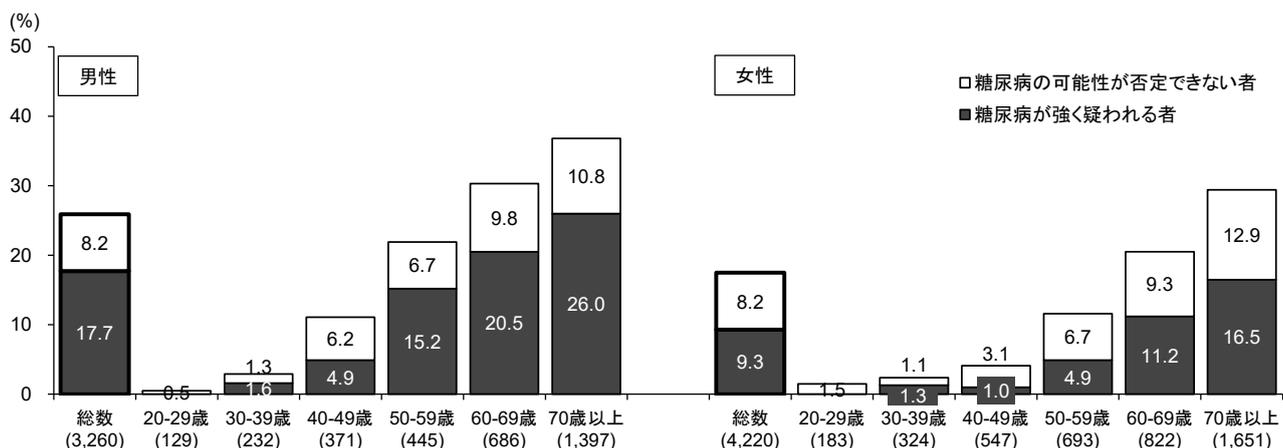
年次	性別	男性							女性						
		総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
平成9年	人数	2,403	234	317	443	486	532	391	3,656	423	553	703	761	661	555
	(%)	100	9.7	13.2	18.4	20.2	22.1	16.3	100	11.6	15.1	19.2	20.8	18.1	15.2
平成14年	人数	2,150	145	257	295	429	546	478	3,196	253	456	472	694	663	658
	(%)	100	6.7	12.0	13.7	20.0	25.4	22.2	100	7.9	14.3	14.8	21.7	20.7	20.6
平成19年	人数	1,619	88	200	210	264	411	446	2,384	116	389	347	447	523	562
	(%)	100	5.4	12.4	13.0	16.3	25.4	27.5	100	4.9	16.3	14.6	18.8	21.9	23.6
平成24年	人数	5,752	299	626	687	824	1,552	1,764	8,337	435	1,028	1,147	1,376	2,075	2,276
	(%)	100	5.2	10.9	11.9	14.3	27.0	30.7	100	5.2	12.3	13.8	16.5	24.9	27.3
平成28年	人数	4,582	192	395	583	592	1,275	1,545	6,609	262	679	928	980	1,737	2,023
	(%)	100	4.2	8.6	12.7	12.9	27.8	33.7	100	4.0	10.3	14.0	14.8	26.3	30.6
令和6年	人数	3,260	129	232	371	445	686	1,397	4,220	183	324	547	693	822	1,651
	(%)	100	4.0	7.1	11.4	13.7	21.0	42.9	100	4.3	7.7	13.0	16.4	19.5	39.1

(※)「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の割合の解析対象者

## 2. 「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の状況

「糖尿病が強く疑われる者」の割合は 12.9%であり、男女別にみると、男性 17.7%、女性 9.3%である。「糖尿病の可能性を否定できない者」の割合は 8.2%であり、男女別にみても、男女ともに 8.2%である。

図2 「糖尿病が強く疑われる者」、「糖尿病の可能性を否定できない者」の割合（20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值）



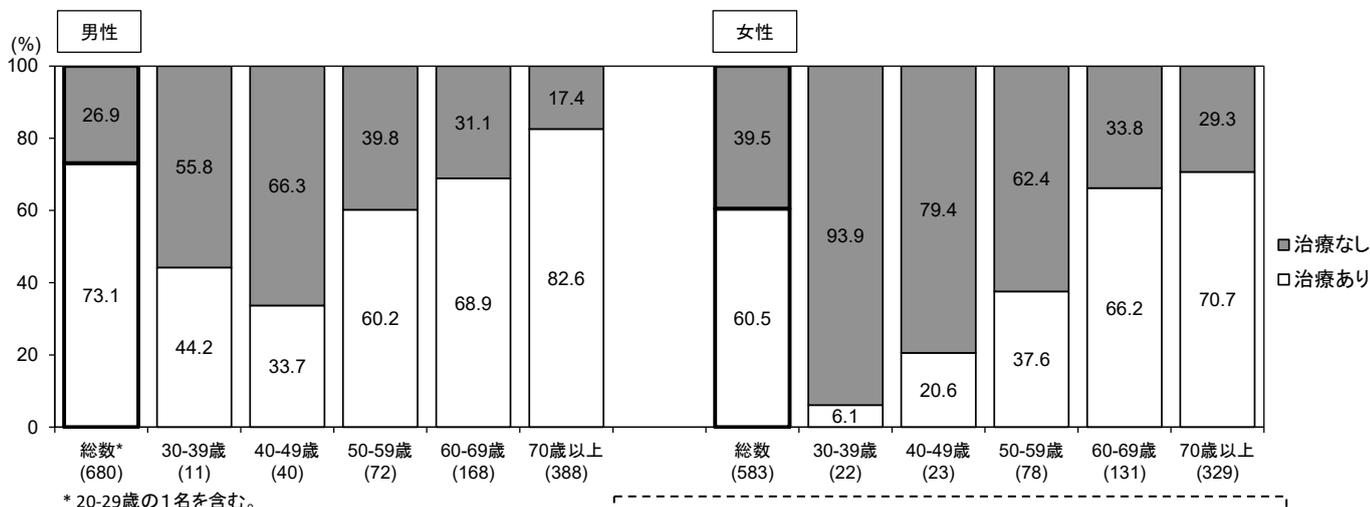
## 3. 糖尿病の治療に関する状況

「糖尿病を指摘されたことがある者」のうち、現在治療を受けている者の割合は 67.4%であり、男女別にみると、男性で 73.1%、女性で 60.5%である。年齢階級別にみると、30~40 歳代では治療を受けていない者の割合が他の年代よりも高い。

### ▼「糖尿病を指摘されたことがある者」、「現在治療を受けている者」の判定▼

ヘモグロビン A1c の測定値があり、身体状況調査票(7)、(7-1)及び(7-2)が有効回答の者のうち、身体状況調査票(7)「これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことの有無」に「有」と回答した者を「糖尿病を指摘されたことがある者」とし、そのうち、(7-1)「現在の糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者を「現在治療を受けている者」とした。

図3 「糖尿病を指摘されたことがある者」における治療の状況（20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值）



\* 20-29歳の1名を含む。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 治療継続者の増加  
目標値: 治療継続者の割合 75%

### 第3章 身体に関する状況

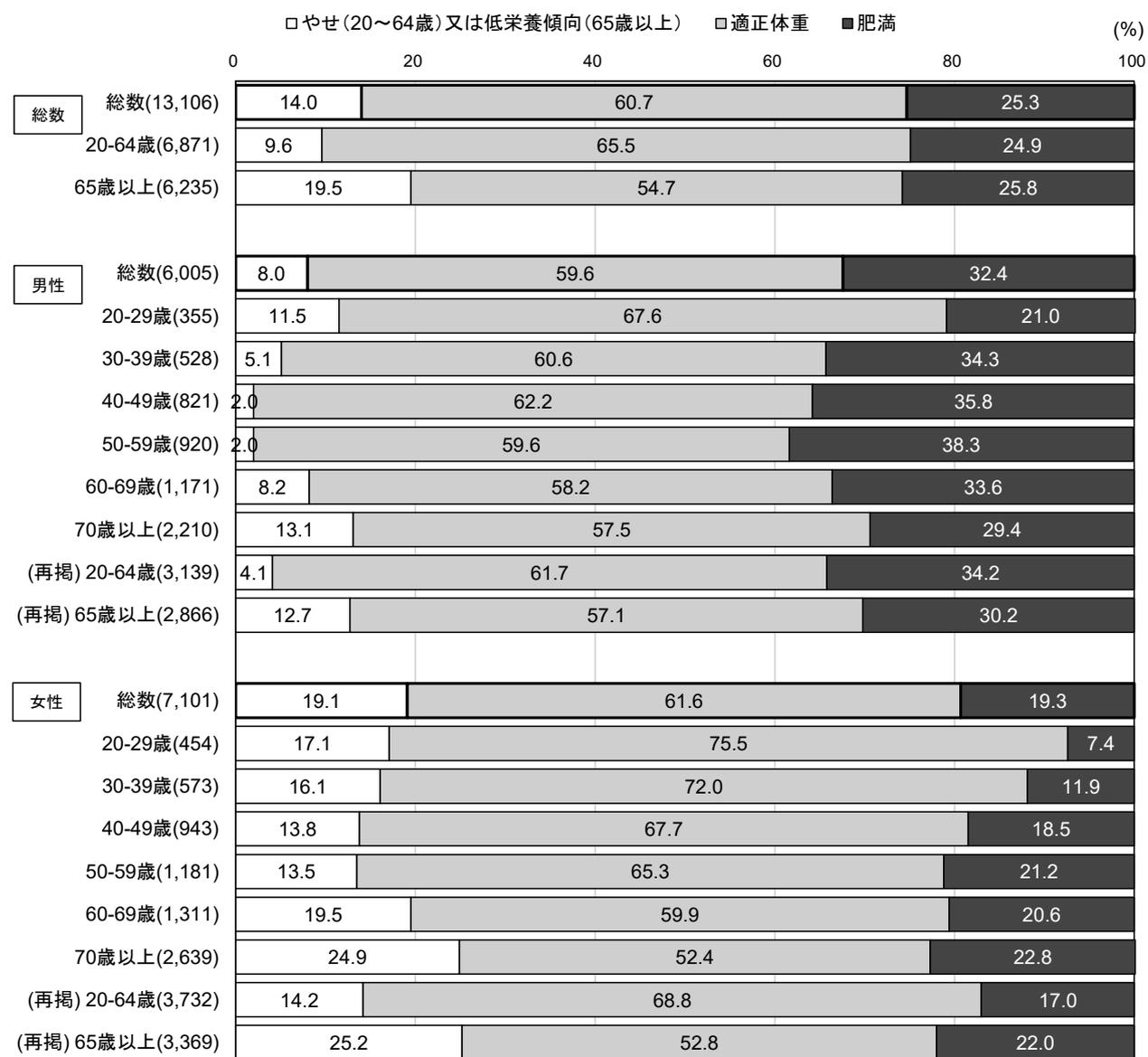
#### 1. BMI の状況

適正体重を維持している者(BMI18.5 kg/m<sup>2</sup>以上 25 kg/m<sup>2</sup>未満(65歳以上は BMI20 kg/m<sup>2</sup>を超え 25 kg/m<sup>2</sup>未満)の者)の割合は 60.7%(年齢調整値 62.2%)である。20~60歳代男性の肥満者(BMI25 kg/m<sup>2</sup>以上)の割合は 34.0%、40~60歳代女性の肥満者の割合は 20.2%である。

また、20~30歳代女性のやせ(BMI 18.5 kg/m<sup>2</sup>未満)の割合は 16.6%、高齢者(65歳以上)の低栄養傾向(BMI 20 kg/m<sup>2</sup>以下)の割合は 19.5%である。

▼BMI(Body Mass Index)[kg/m<sup>2</sup>]: 体重[kg] / (身長[m])<sup>2</sup>

図4 BMI の状況(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標

適正体重を維持している者の増加(肥満、若年女性のやせ、低栄養傾向の高齢者の減少)

目標値: BMI18.5以上 25未満(65歳以上は BMI20を超え 25未満)の者の割合(年齢調整値) 66%

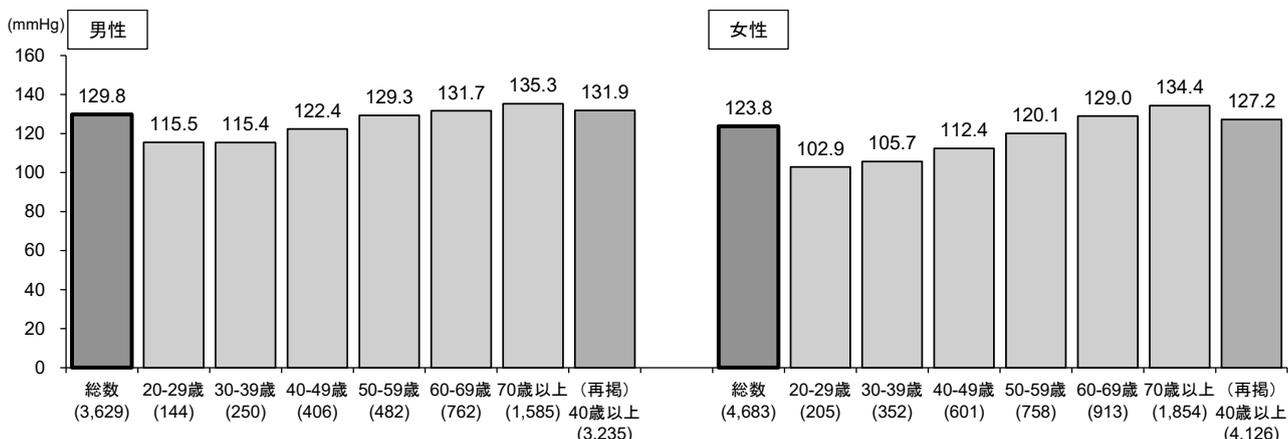
若年女性のやせの減少 目標値: BMI18.5未満の 20歳~30歳代女性の割合 15%

低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の減少 目標値: BMI20以下の高齢者(65歳以上)の割合 13%

## 2. 血圧に関する状況

収縮期(最高)血圧の平均値は 126.4 mmHg であり、男女別にみると、男性 129.8 mmHg、女性 123.8 mmHg である。  
40 歳以上の平均値は 129.3 mmHg(年齢調整値 127.3 mmHg)である。

図5 収縮期(最高)血圧の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



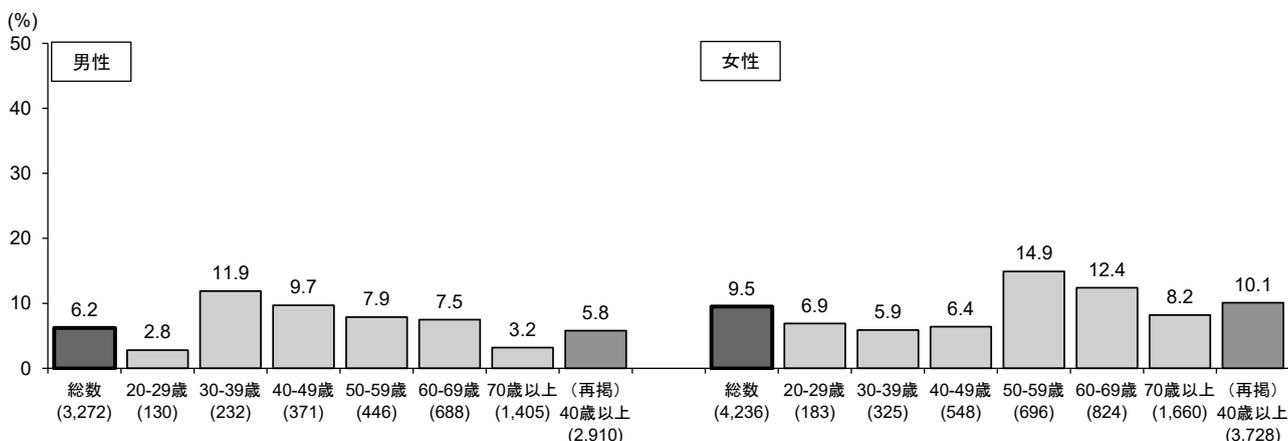
※水銀を使用しない血圧計を使用。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 高血圧の改善  
目標値: 収縮期血圧の平均値(40 歳以上、内服加療中の者を含む。)(年齢調整値)  
ベースライン値から 5 mmHg の低下

## 3. 血中コレステロールに関する状況

血清 LDL コレステロール値が 160 mg/dl 以上の者の割合は 8.1% であり、男女別にみると、男性 6.2%、女性 9.5% である。  
40 歳以上では 8.2%(年齢調整値 8.5%) である。

図6 血清 LDL コレステロール値が 160 mg/dl 以上の者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 脂質(LDL コレステロール)高値の者の減少  
目標値: LDL コレステロール 160 mg/dl 以上の者の割合(40 歳以上、内服加療中の者を含む)(年齢調整値)  
ベースライン値から 25% の減少

## 第4章 栄養・食生活に関する状況

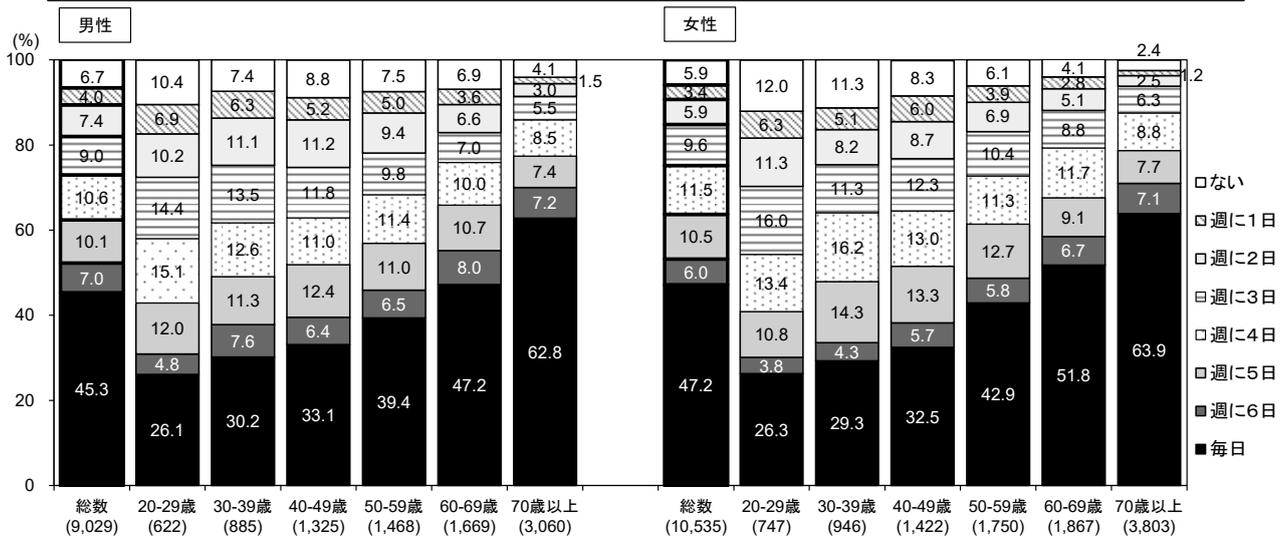
### 1. 栄養バランスのとれた食事に関する状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合は、52.8%である。男女別にみると、男性 52.3%、女性 53.2%であり、年齢階級別にみると、男女ともに20歳代で最も低い。

図7 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

問:ここ1ヶ月間の様子についておたずねします。あなたは、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日でしたか。

主食:ごはん、パン、麺類などの料理、主菜:魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理、副菜:野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理



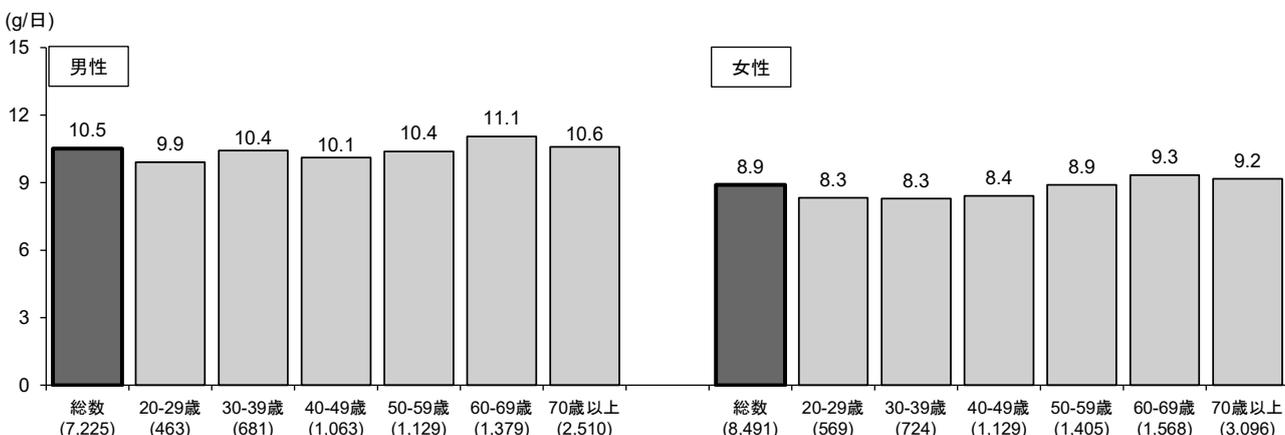
※「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者」とは、「毎日」又は「週に6日」と回答した者。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 バランスの良い食事を摂っている者の増加  
目標値: 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合 50%

### 2. 食塩摂取量の状況

食塩摂取量の平均値は9.6gであり、男女別にみると、男性 10.5g、女性 8.9gである。

図8 食塩摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

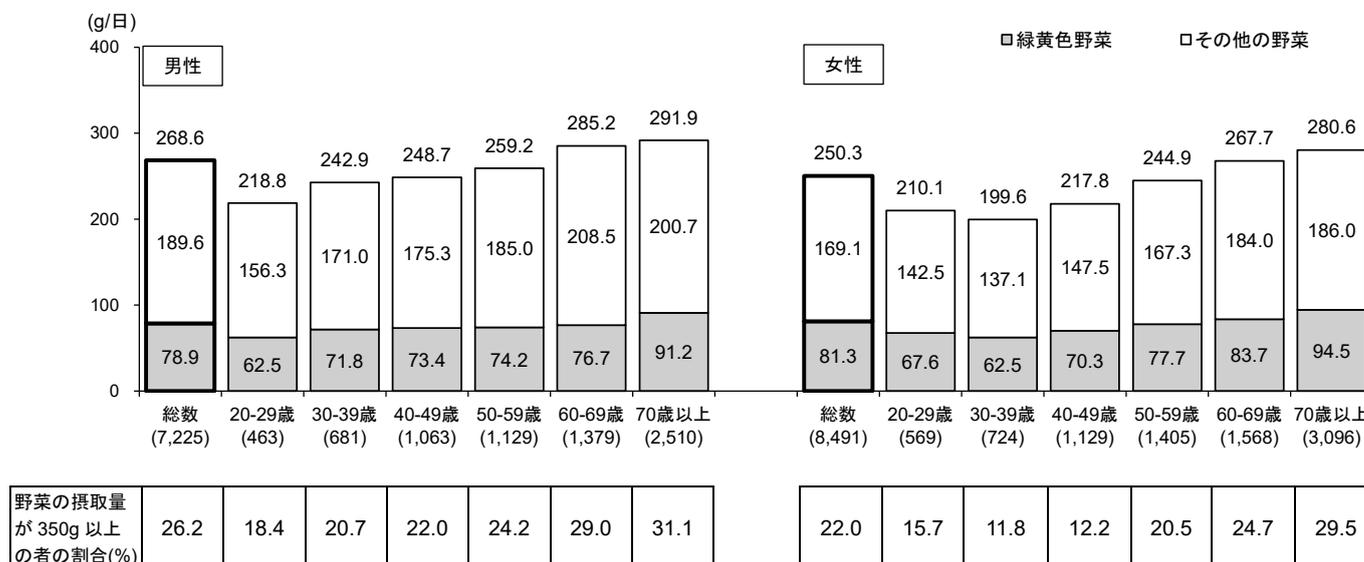


(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 食塩摂取量の減少  
目標値: 食塩摂取量の平均値 7g

### 3. 野菜摂取量の状況

野菜摂取量の平均値は 258.7 g であり、男女別にみると、男性 268.6 g、女性 250.3 g である。年齢階級別にみると、年齢階級が高い層で摂取量が多い。

図9 野菜摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

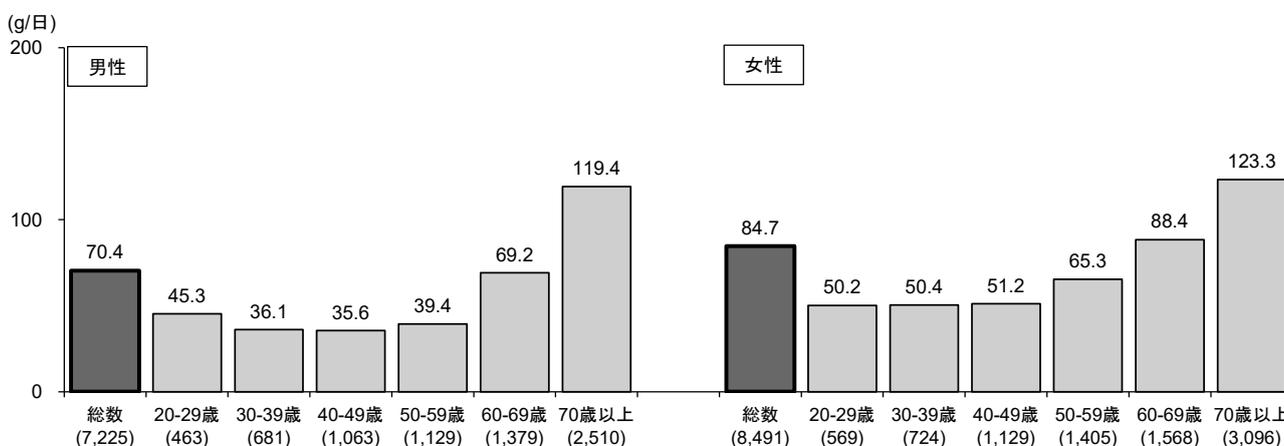


(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 野菜摂取量の増加  
目標値:野菜摂取量の平均値 350 g

### 4. 果物摂取量の状況

果物摂取量の平均値は 78.1 g であり、男女別にみると、男性 70.4 g、女性 84.7 g である。年齢階級別にみると、男女ともに 70 歳以上の摂取量が最も多い。

図 10 果物摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



※ジャムを除く

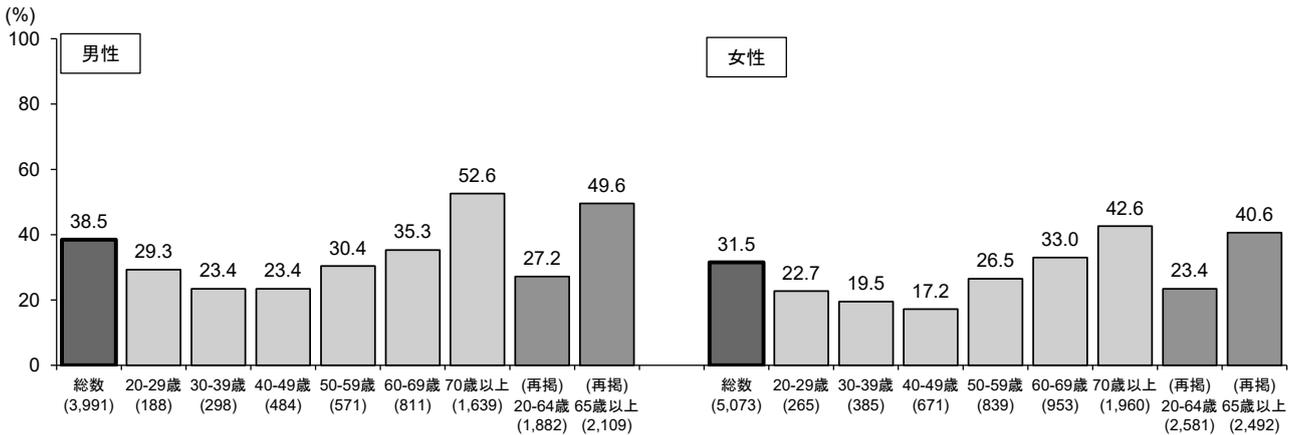
(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 果物摂取量の改善  
目標値:果物摂取量の平均値 200 g

## 第5章 身体活動・運動及び睡眠に関する状況

### 1. 運動習慣者の状況

運動習慣のある者の割合は 34.6%(年齢調整値 31.3%)であり、男女別にみると、男性で 38.5%、女性で 31.5%である。年齢階級別にみると、男女ともにその割合は 30~40 歳代で低くなっている。

図 11 運動習慣のある者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



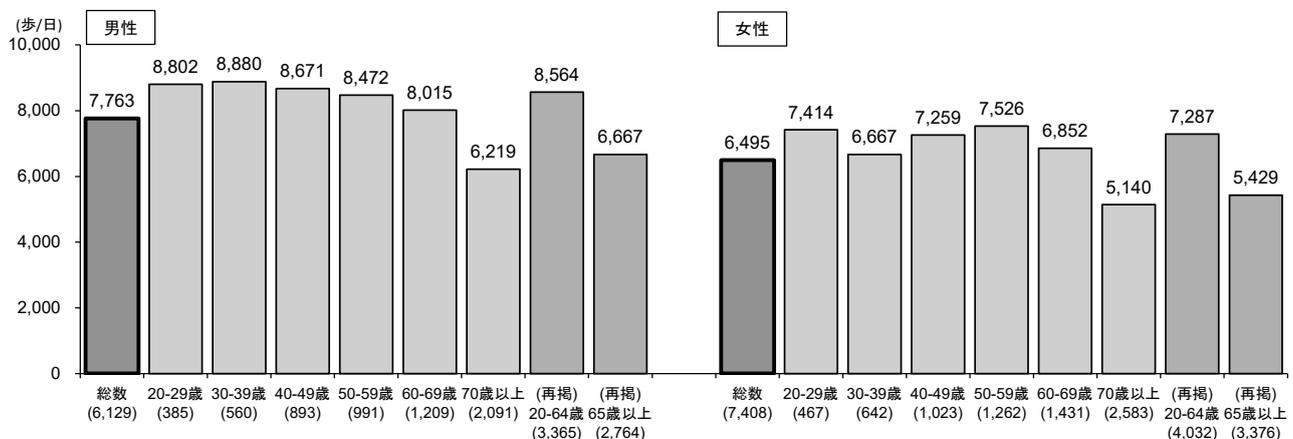
※「運動習慣のある者」とは、1回 30 分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 運動習慣者の増加  
目標値: 運動習慣者の割合(年齢調整値) 40%

### 2. 歩数の状況

歩数の平均値は 7,071 歩(年齢調整値 7,231 歩)であり、男性で 7,763 歩、女性で 6,495 歩である。20~64 歳の歩数の平均値は、男性 8,564 歩、女性 7,287 歩であり、65 歳以上では男性 6,667 歩、女性 5,429 歩である。

図 12 歩数の平均値(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



※三次元加速度センサー式歩数計を使用。

※歩数計を1日装着していなかった者、100歩未満又は5万歩以上の者は除く。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 日常生活における歩数の増加  
目標値: 1日の歩数の平均値(年齢調整値) 7,100 歩

### 3. 睡眠の状況

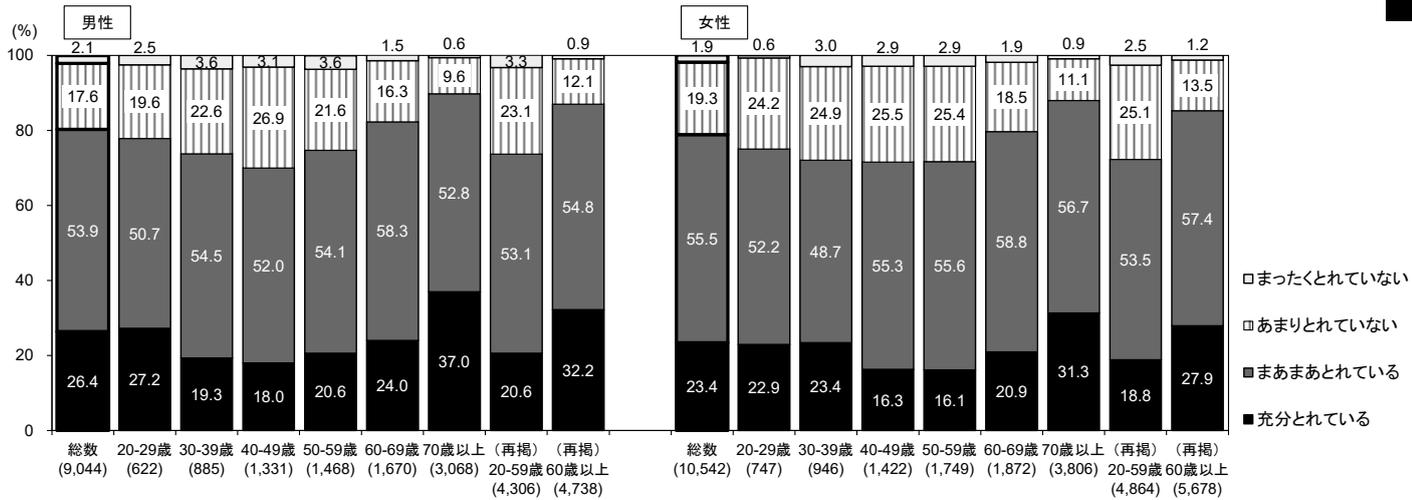
ここ1ヶ月間、睡眠で休養がとれている者の割合は 79.6%(年齢調整値 78.5%)であり、男女別にみると、男性で 80.4%、女性で 78.9%である。

20~59 歳では 73.0%、60 歳以上は 86.1%である。

1日の平均睡眠時間が6時間以上9時間未満(60 歳以上については6時間以上8時間未満)の者の割合は 56.0%(年齢調整値は 56.9%)であり、男女別にみると、男性 56.1%、女性 55.9%である。

図 13 睡眠の状況(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

問:ここ1ヶ月間、あなたは睡眠で休養が充分とれていますか。

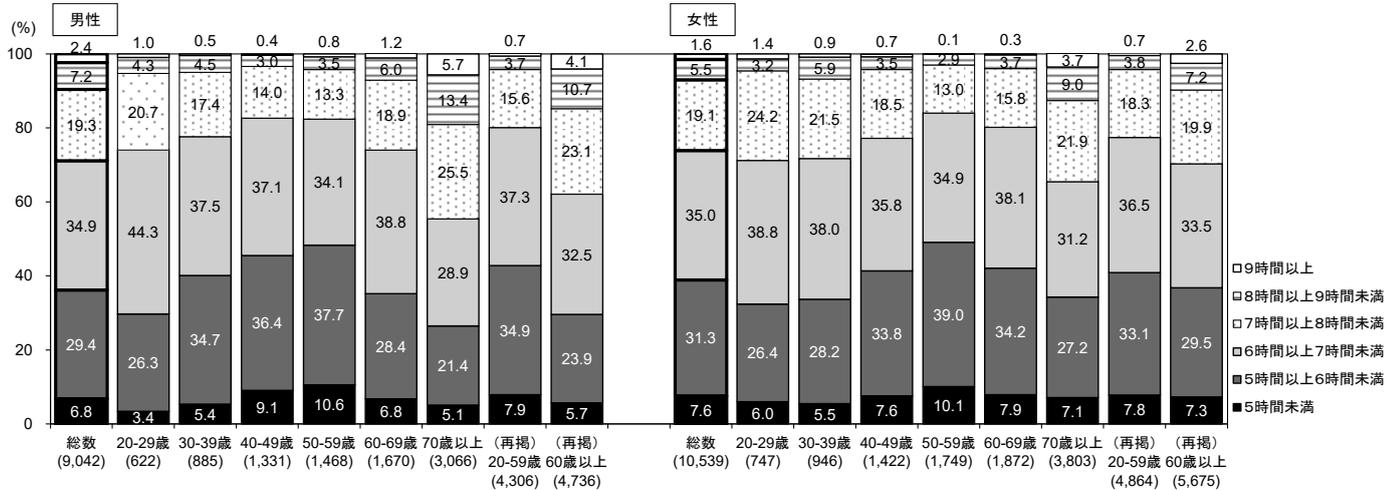


※「睡眠で休養がとれている者」とは、睡眠で休養が「充分とれている」又は「まあまあとれている」と回答した者。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 睡眠で休養がとれている者の増加  
目標値:睡眠で休養がとれている者の割合(年齢調整値) 80%

図 14 1日の平均睡眠時間(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

問:ここ1ヶ月間、あなたの1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか。



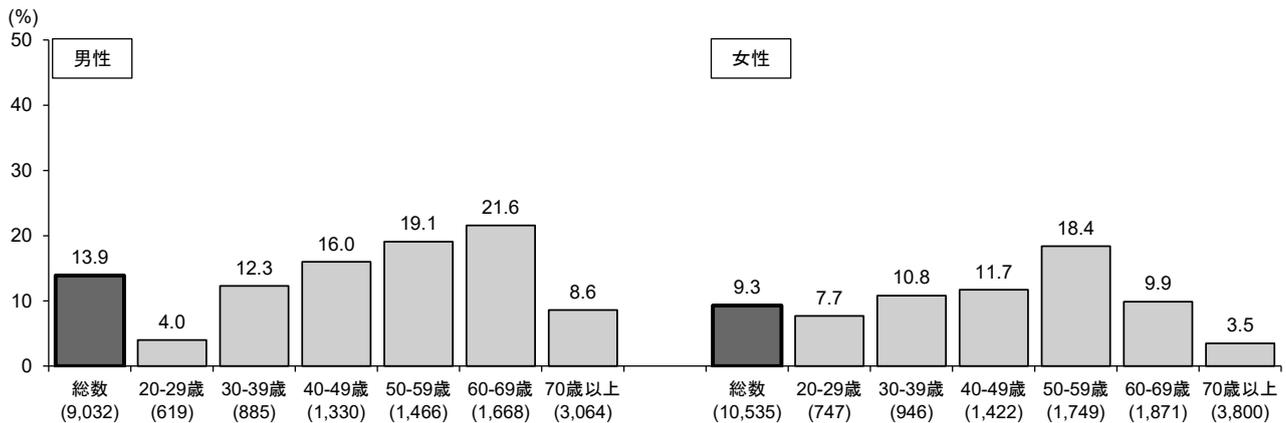
(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 睡眠時間が十分に確保できている者の増加  
目標値:睡眠時間が6~9時間(60 歳以上については6~8時間)の者の割合(年齢調整値) 60%

## 第6章 飲酒・喫煙に関する状況

### 1. 飲酒の状況

生活習慣病(NCDs)のリスクを高める量を飲酒している者の割合は11.4%であり、男女別にみると、男性13.9%、女性9.3%である。年齢階級別にみると、その割合は男性では60歳代、女性では50歳代が最も高く、それぞれ21.6%、18.4%である。

図15 生活習慣病(NCDs)のリスクを高める量を飲酒している者の割合(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



※「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者とし、以下の方法で算出。

- ①男性:「毎日×2合以上」+「週5~6日×2合以上」+「週3~4日×3合以上」+「週1~2日×5合以上」+「月1~3日×5合以上」
- ②女性:「毎日×1合以上」+「週5~6日×1合以上」+「週3~4日×1合以上」+「週1~2日×3合以上」+「月1~3日×5合以上」

清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当する。  
 ビール・発泡酒中瓶1本(約500ml)、焼酎20度(135ml)、焼酎25度(110ml)、焼酎30度(80ml)、チューハイ7度(350ml)、  
 ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

(参考)「健康日本21(第三次)」の目標 生活習慣病(NCDs)のリスクを高める量を飲酒している者の減少  
 目標値:1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g、女性20g以上の者の割合 10%  
 生活習慣病(NCDs)のリスクを高める量を飲酒している女性の減少  
 目標値:1日当たりの純アルコール摂取量が20g以上の女性の割合 6.4%

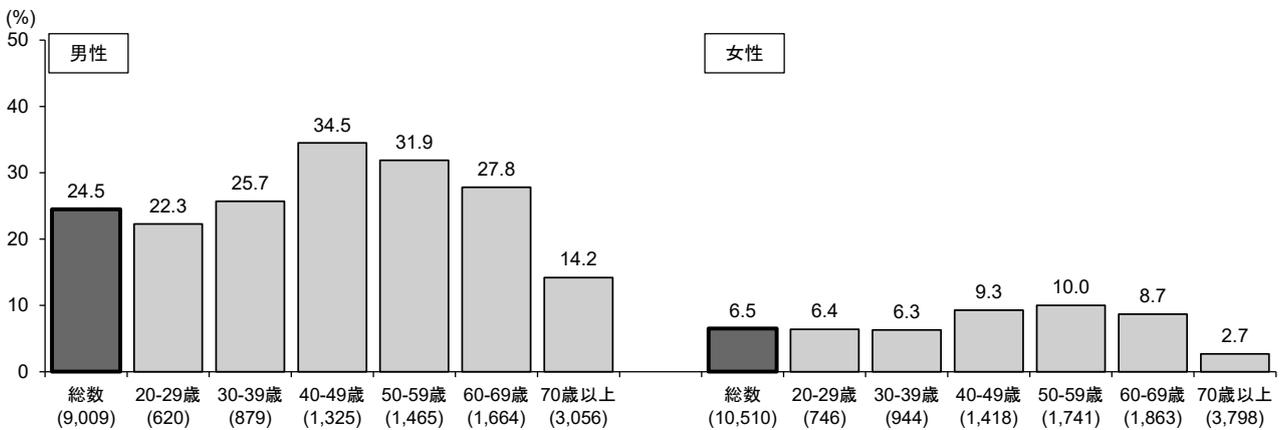
## 2. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は 14.8%であり、男女別にみると、男性 24.5%、女性 6.5%である。年齢階級別にみると、男性では 40～50 歳代でその割合が高く、3割を超えている。

現在習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品の種類は、「紙巻たばこ」の割合が男性 65.4%、女性 60.0%であり、「加熱式たばこ」の割合が男性 41.4%、女性 44.2%である。

たばこ製品の組合せについて、「紙巻たばこのみ」「加熱式たばこのみ」「紙巻たばこ及び加熱式たばこ」の割合は、男性では、それぞれ 56.9%、33.0%、8.4%であり、女性では、それぞれ 55.2%、39.3%、4.8%である。

図 16 現在習慣的に喫煙している者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

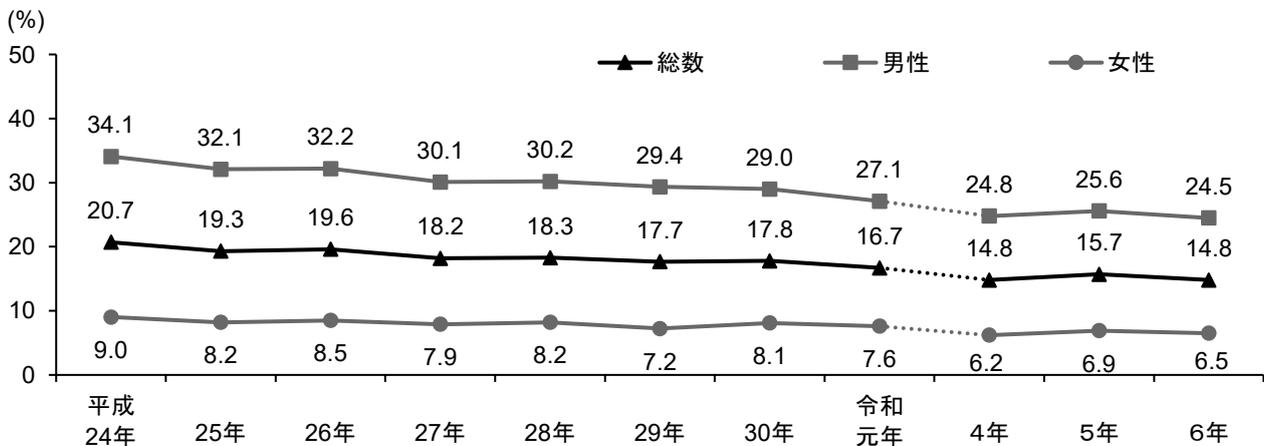


※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 喫煙率の減少(喫煙をやめたい者がやめる)  
目標値:20 歳以上の者の喫煙率 12%

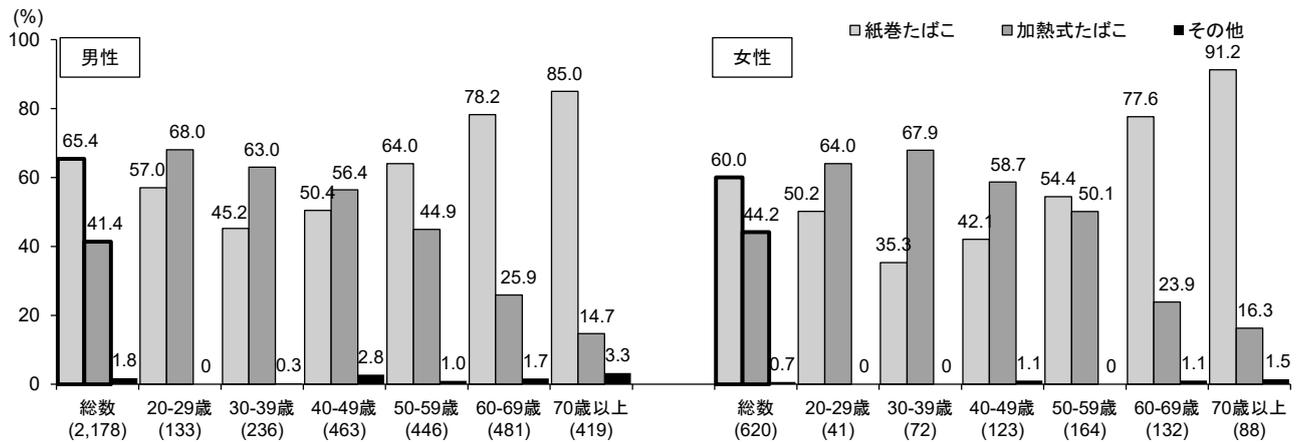
### 〈参考図〉 現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移(20 歳以上)

(平成 24 年～令和元年、4 年～6 年)



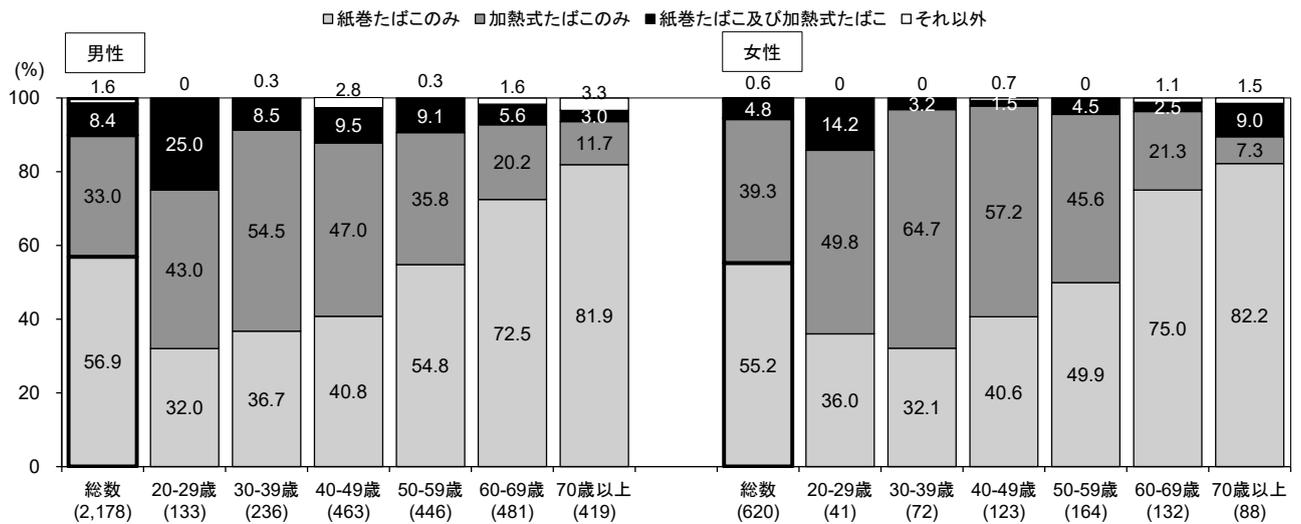
(令和 2 年及び 3 年は調査中止)

図 17 現在習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品の種類(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



※たばこ製品は、「紙巻たばこ」、「加熱式たばこ」、「その他」の中から、複数回答可とした。

図 18 現在習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品の組合せの状況(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)

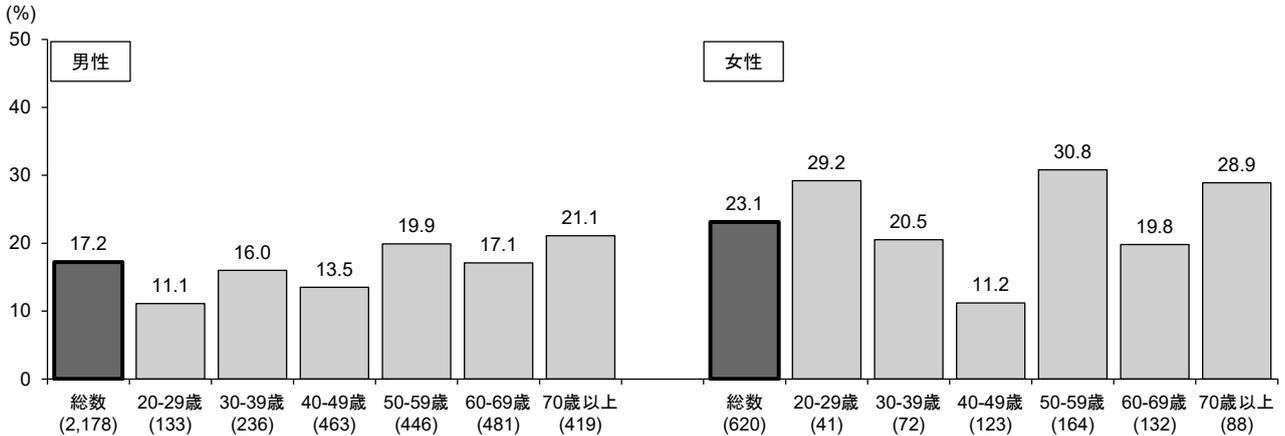


※「紙巻たばこ及び加熱式たばこ」とは、複数回答において「紙巻たばこ」及び「加熱式たばこ」の両方を選択した者。

### 3. 禁煙意思の有無の状況

現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合は 18.6%であり、男女別にみると、男性 17.2%、女性 23.1%である。

図 19 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこをやめたいと思う者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



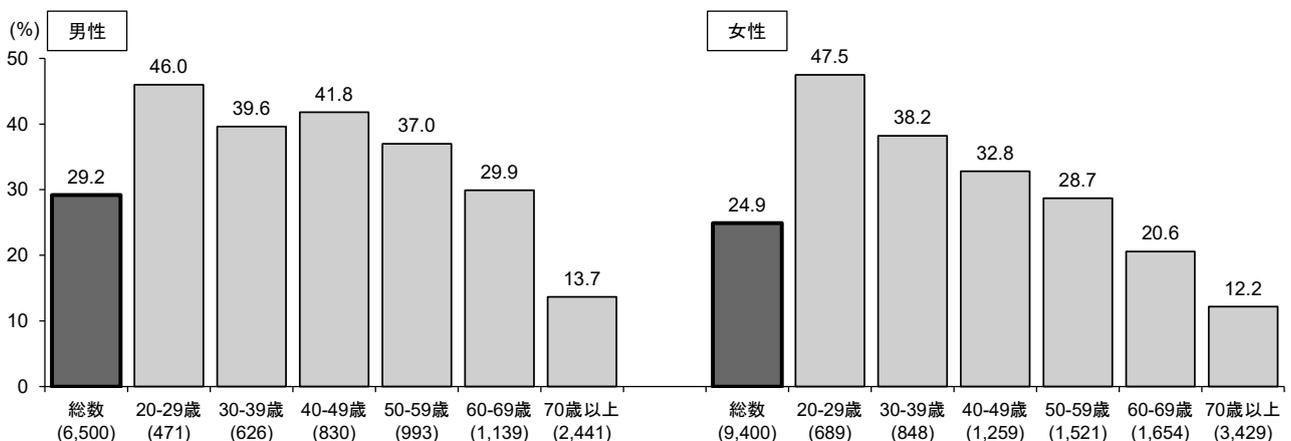
### 4. 受動喫煙の状況

望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者の割合は 26.7%であり、男女別にみると、男性 29.2%、女性 24.9%である。

自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する者(現在喫煙者を除く。)の割合について場所別にみると、「路上」が 28.6%と最も高く、次いで「職場」が 16.9%、「飲食店」が 16.7%となっている。

図 20 望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者の割合  
(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值、現在喫煙者を除く)

問 あなたはこの1ヶ月間に、望まずに自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。



※「現在喫煙者」とは現在習慣的に喫煙している者。

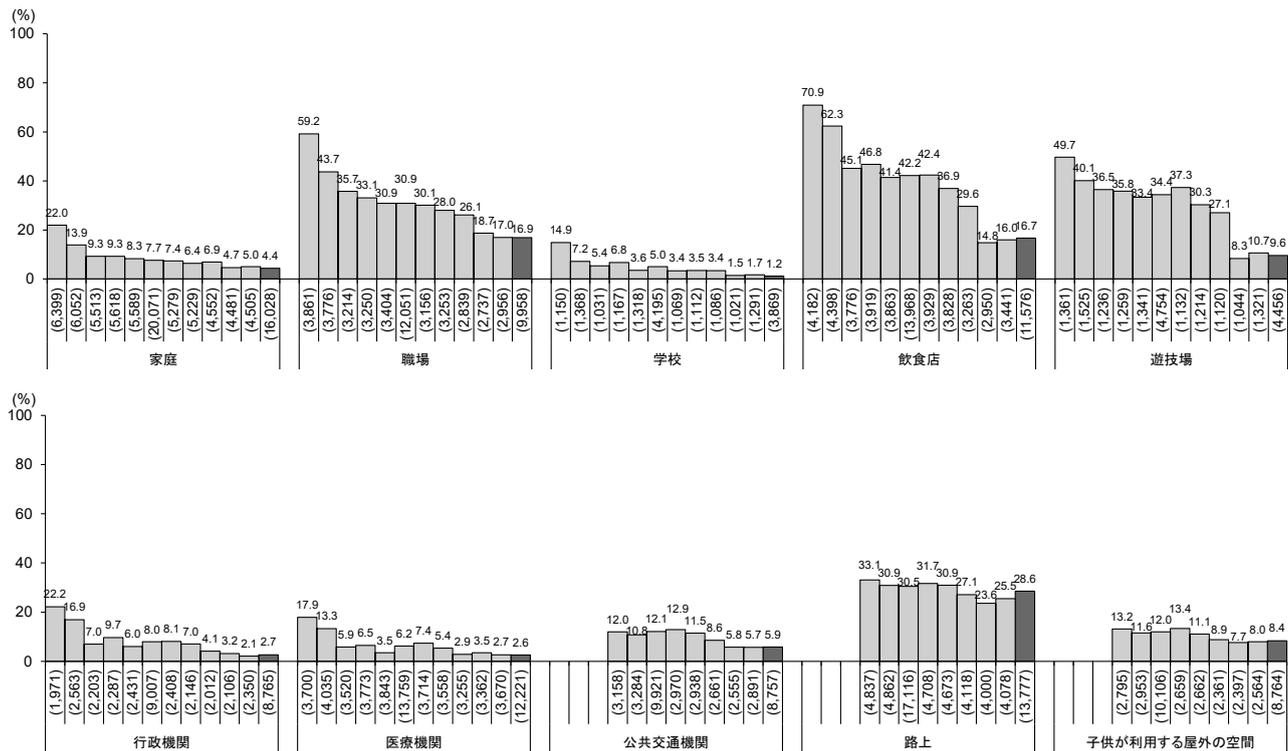
※「望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者」とは、「家庭」「職場」「飲食店」のいずれか1つ以上において月1回以上受動喫煙の機会を有する者。

(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 望まない受動喫煙の機会を有する者の減少  
目標値: 望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者の割合  
望まない受動喫煙のない社会の実現

図 21 自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する者の割合  
(20歳以上、男女計、現在喫煙者を除く)(平成15(2003)年、20(2008)年、23(2011)年、  
25(2013)年、27(2015)年、28(2016)年、29(2017)年、30(2018)年、令和元(2019)年、  
4(2022)年、5(2023)年、6(2024)年)

問 あなたはこの1ヶ月間に、望まずに自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。

左から順に、平成15(2003)年、20(2008)年、23(2011)年、25(2013)年、27(2015)年、28(2016)年、29(2017)年、30(2018)年、令和元(2019)年、4(2022)年、5(2023)年、6(2024)年。ただし、公共交通機関、路上及び子供が利用する屋外の空間は、左から順に平成25(2013)年、27(2015)年、28(2016)年、29(2017)年、30(2018)年、令和元(2019)年、4(2022)年、5(2023)年、6(2024)年。平成28(2016)年、令和6(2024)年については、全国補正值。



※「現在喫煙者」とは現在習慣的に喫煙している者。

※「受動喫煙の機会を有する者」とは、家庭:毎日受動喫煙の機会を有する者、その他:月1回以上受動喫煙の機会を有する者(行かなかった者を除く。)

※学校、飲食店、遊技場などに勤務していて、その職場で受動喫煙があった場合は、「職場」欄に回答。

※屋内・屋外等、受動喫煙が生じた場所や場面は不明。

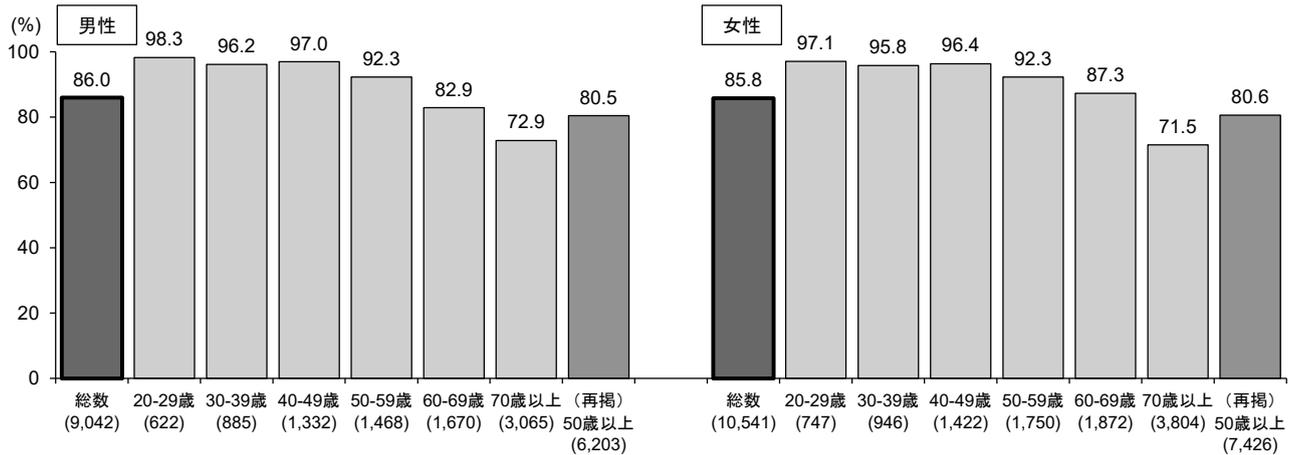
## 第7章 歯・口腔の健康に関する状況

### 1. 歯・口腔の健康に関する状況

何でもかんで食べることができる」と回答した者の割合は 85.9%であり、男女別にみると、男性で 86.0%、女性で 85.8%である。

50 歳以上ではその割合は 80.6%(年齢調整値 81.3%)である。

図 22 「何でもかんで食べることができる」者の割合(20 歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 よく噛んで食べることができる者の増加  
目標値:50 歳以上における咀嚼良好者の割合(年齢調整値) 80%

## 第8章 社会活動に関する状況

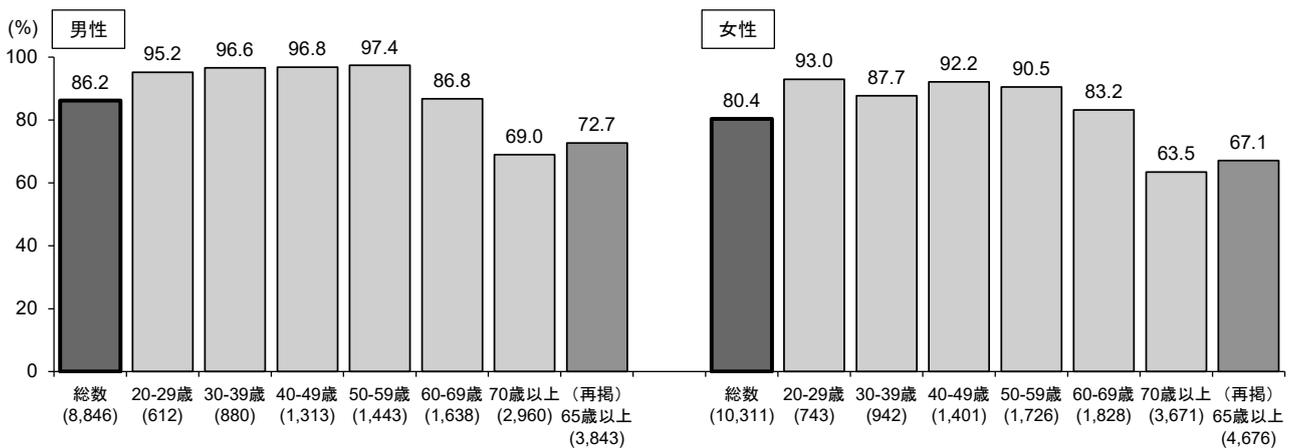
### 1. 社会活動の状況

就労・就学を含む社会活動を行っている者の割合は、83.1%であり、男女別にみると、男性86.2%、女性80.4%である。

65歳以上では、その割合は69.6%である。

地域の社会活動への参加について内容別にみると、町内会や地域行事などの活動に参加している者の割合が最も高く、その割合は31.1%である。

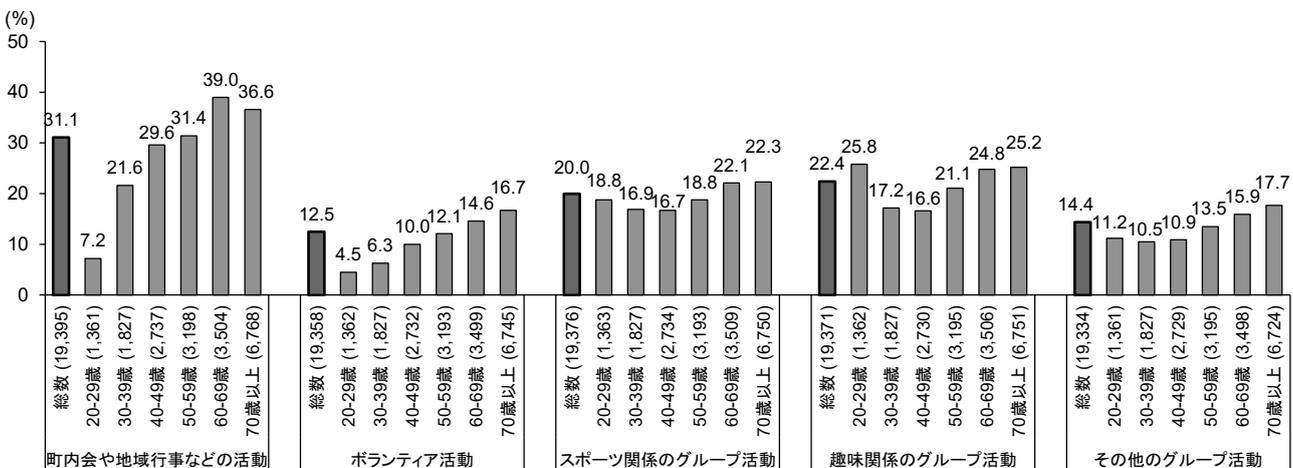
図 23 いずれかの社会活動(就労・就学を含む)を行っている者の割合(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



(参考) 「健康日本 21(第三次)」の目標 社会活動を行っている者の増加  
 目標値: いずれかの社会活動(就労・就学を含む。)を行っている者の割合 ベースライン値から5%の増加  
 社会活動を行っている高齢者の増加  
 目標値: いずれかの社会活動(就労・就学を含む。)を行っている高齢者(65歳以上)の割合  
 ベースライン値から10%の増加

図 24 地域の社会活動に参加している者の割合(20歳以上、男女計・年齢階級別、全国補正值)

問 あなたは、現在、町内会や地域行事、ボランティア活動、スポーツや趣味などのグループ活動に参加していますか。



※「参加している」は「年に数回」「月1~3回」「週1回」「週2~3回」「週4回以上」と回答した者の合計。

※複数回答のため、内訳合計が100%にならない。